

1-3 地域研究会・合同地域研究会の実施



東京大学地震研究所

1

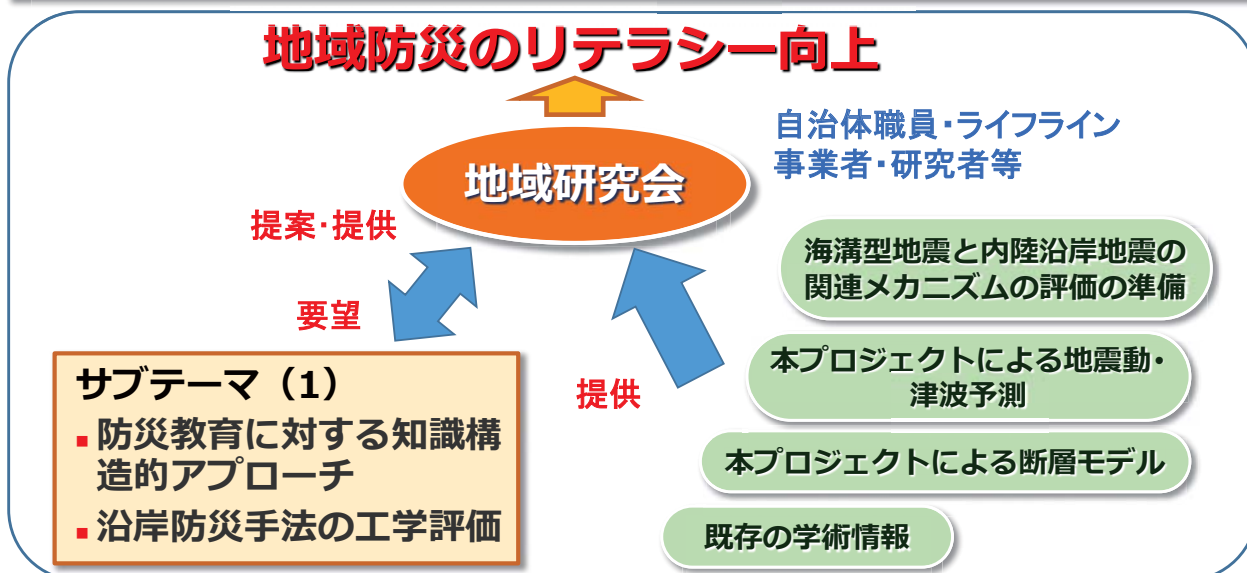
地域研究会の目的・概要



目 的

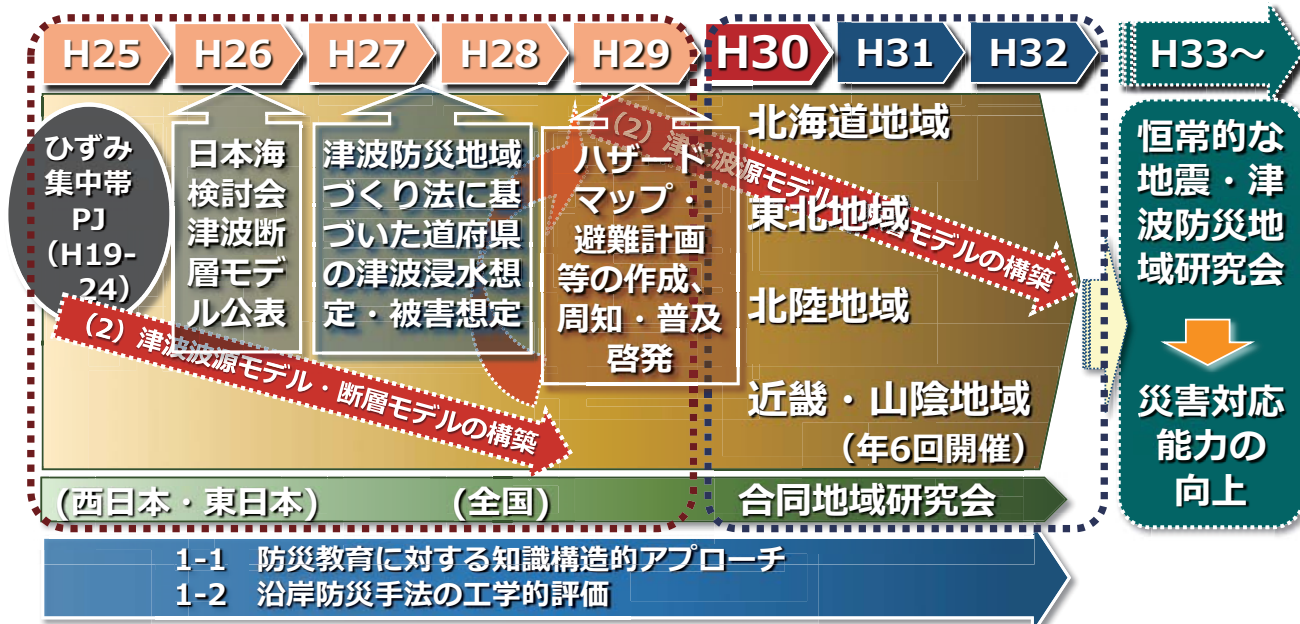
- 本プロジェクトの研究成果と既存の学術情報（自然科学・社会科学）を提供・共有、地域ごとに異なる諸状況に合った地域防災リテラシーの向上と地域への還元
- 恒常的な地震・津波防災地域研究会を構築

地域防災のリテラシー向上



2

地域研究会の開催計画



開催方針

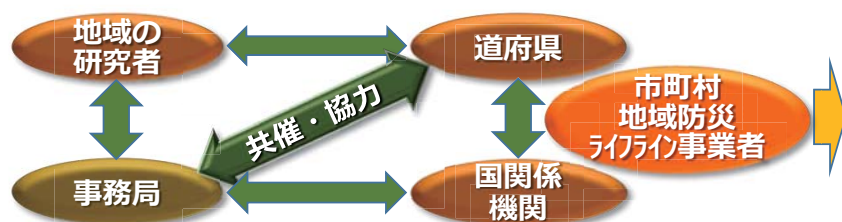
- 本プロジェクトの成果を、自治体やライフライン事業者等が講ずべき施策に反映できるよう、地域ごとに分かり易く伝達。
- 市民の防災意識醸成や行動に結びつくような自治体からの働きかけができるよう、自治体等の理解を促進。

地域研究会の開催方針



(5年間を終え、残る3年間に向けて)

協調・協働の関係構築 → 持続的連携体制の枠組み構築



● 参画機関の拡大・継続

- 道府県 (各部署)
- 市町村防災担当
- 消防、警察
- 地域防災
- 指定 (地方) 公共機関 (ライフライン事業者、報道機関) など

★ 阻害要因: 担当者異動 → 継続性確保 → 情報の共有・継続、持続的連携体制

★ 促進要因: 意識の醸成、気運の高まり、地域研究会の有効活用、参画機関の拡がり等

→ 協調・協働の (顔の見える) 関係構築 → 共催・協力 → 持続的連携体制の構築

PJ前

● 国が各種法律を制定

前半4年
↓
後半4年

- H26.9、国が「日本海における大規模地震に関する調査検討会」報告書による津波断層モデルを公表
- 道府県が津波浸水想定

- 市町村が津波ハザードマップ、津波避難計画等を作成
- 市町村が周知、普及啓発、訓練
- 各機関が連携、具体的対策 など

- 情報提供・認識・理解
・既存の学術情報 (PJの研究成果)
- 課題抽出・共有

- 情報提供・認識・理解
・PJの研究成果
・最新の学術情報
- 新たな課題・解決
【地域特性→具体的対策】

一定の評価

各ステージに応じた
新たな課題・解決

地域の特性に応じた
具体的対策の落とし込み

PJ後

● 恒常的連携体制 → 災害対応能力の向上

平成30年度 進捗状況・予定



●第7回 北海道地域研究会 in 渡島・檜山地域

テーマ 渡島・檜山地域の津波防災（仮題）

開催月日 平成31年3月（予定）

内容
 第一部（午前の部）講演
 「渡島・檜山地域の津波の特徴（仮題）」
 （講師：佐藤 比呂志 東京大学地震研究所 教授）
 第二部（午後の部）ワークショップ「渡島・檜山地域の津波防災（仮題）」
 （進行役：定池 祐季 氏 東北大学災害科学国際研究所 助教）

出席機関



備考

※北海道日本海側沿海は他府県に比べ範囲が広域なため、一定の行政区分で捉え、今年度は渡島・檜山管内（江差町）で開催。
 ※北海道と共催とし、北海道開発局、札幌管区気象台が協力。
 ※午前、午後の二部制とする。
 ※第一部は広く一般に公開、プレス公開。
 ※第二部は、近隣市町村をはじめ防災関係機関を対象。

5

平成30年度 進捗状況・予定



●第1回 青森県地震・津波防災地域研究会

テーマ 日本海中部地震から35年
 ～過去を振り返り、今後の教訓とするために～

開催月日 平成30年12月17日（予定）

内容
 第一部：講演
 1. 「青森県日本海側の地震・津波の特徴」
 （東京大学地震研究所 佐藤比呂志 教授）
 2. 「あれから35年～何が変わったか～」
 （弘前大学大学院理工学研究科 小菅 正裕 教授）
 3. 「津波研究・津波即時予測技術の最前線」
 （弘前大学大学院理工学研究科 前田 拓人 准教授）
 第二部：パネルディスカッション
 「日本海中部地震から35年
 ～過去を振り返り、今後の教訓とするために～」
 ※コーディネータ
 （弘前大学大学院理工学研究科 小菅 正裕 教授）

出席機関



備考

※青森県弘前地域（津軽地方日本海側）を対象として新規立ち上げ。
 ※弘前大学と共催（予定）、学生にも公開予定。

6

平成30年度 進捗状況・予定



●第6回 山形県地震・津波防災地域研究会

テーマ 山形県の津波防災

開催月日 平成30年9月18日

内容 第一部 講演「庄内地域周辺の地震・津波災害」
(講師：佐藤 比呂志 東京大学地震研究所 教授)
第二部 意見交換「庄内地域周辺に影響を及ぼす地震・津波への対応
～各機関が講ずべき対策に向けて～」

出席機関



備考 ※既存組織の庄内地域地震・津波等災害対策連絡協議会津波対策部会と共催



7

平成30年度 進捗状況・予定



●第7回 新潟県地震・津波防災地域研究会

テーマ 新潟県の津波防災（津波防災地域づくりに関する意見交換会）

開催月日 平成30年11月7日（予定）

内容 (1) 講演「堆積物からみた日本海の津波履歴研究の現状と課題」
(講師：卜部 厚志 氏 新潟大学 災害・復興科学研究所 准教授)
(2) 情報提供「津波災害警戒区域等指定の事例について」
(国土交通省 水管理・国土保全局 水防企画室 課長補佐 相澤 竜哉 氏)
(3) 意見交換「新潟県の地震・津波防災～各機関が講ずべき対策に向けて～」

出席機関



備考 ※新潟県と共催。
※講演は地方指定公共機関（ライフライン事業者等）にも拡大、プレス公開。

8

平成30年度 進捗状況・予定

●第6回 富山県地震・津波防災地域研究会

テーマ 富山県の地震・津波防災～正しく恐れて、正しく備える～

開催月日 平成30年10月22日

- 第一部 地域防災フォーラム「富山県の地震・津波防災～正しく恐れて、正しく備える～」**
- 講演-1「富山県で考えるべき地震と地震災害」
(講師：岩田 知孝 京都大学防災研究所 教授)
- 講演-2「効果的な災害対応を実現するための『状況認識の統一』
～現代社会でできること・できないこと～」
(講師：井ノ口宗成 富山大学 都市デザイン学部 准教授)
- 第二部 防災関係者意見交換会「富山県の地震・津波防災
～正しく恐れて、正しく備える～」**

出席機関



9

平成30年度 進捗状況・予定

●第6回 富山県地震・津波防災地域研究会

テーマ 富山県の地震・津波防災～正しく恐れて、正しく備える～

開催月日 平成30年10月22日

備考 ※第一部は富山県と共催とし、一般公開、プレス公開。
※第二部は地域研究会構成機関を対象。



10

平成30年度 進捗状況・予定



●第2回 京都府地震・津波防災地域研究会

テーマ 中丹・丹後地域の特性を考慮した津波避難計画について（仮題）

開催月日 平成30年12月25日（予定）

第一部 講演「中丹・丹後地域の津波避難計画について（仮題）」
 （講師）：鈴木 進吾 氏 防災科学技術研究所 災害過程研究部門 副部門長、主幹研究員
 第二部 意見交換「中丹・丹後地域における津波避難計画作成の取組みと課題
 ～各機関が講ずべき対策に向けて～」

出席機関 府 市町 消防 警察 気象台 海保 研究者

備考

11

平成30年度 参加予定機関



地域	国			道県		市町村	消防 警察	地域 防災	指定地方公共 機関 (ライフライン事業者等)	研究者	参加 機関 拡大	プレス 公開
	地整・ 開発局	出先 機関	気象 台	関係 部局	出先 機関							
北海道	◎	○	○	◎	○	○	○	○※1	○	◎	○	◎※1
青森県	○	○	○	◎	-	○	○	-	○	◎	-	-
山形県	-	○	○	◎	◎	○	○	-	-	-	-	-
新潟県	◎	○	○	◎	-	○	●	-	●※2	○	○	◎※2
富山県	○	○	○	◎	○	○	-	○※3	○	○	-	○※3
京都府	○	○	○	◎	○	○	○	-	-	◎	-	-

◎：事前協議を含め主体となる機関。

○：共催、協力機関。

●：新規参加機関。

※1：北海道地域研究会は第一部を一般公開、プレス公開、第二部は行政担当者向け。

※2：新潟県地域研究会は第一部を指定公共機関（ライフライン事業者等）にも拡大、プレス公開。

※3：富山県地域研究会は第一部を一般公開、プレス公開、第二部は地域研究会構成機関を対象。

12

● **人事異動に伴う継続性の確保**

- ・ 複数県で全員異動、もしくは一部異動
- ・ 業務が引き継がれ、スムーズに進行

● **外からの刺激の効果**

- ・ 「外からの刺激」により毎年繰り返し開催
- ・ 1年の行事として組み込まれ、体制が構築

● **今後の課題 - 内発と継続の促進**

- ・ PJ終了後、これまでの開催を踏まえ、各地域で：
 - ・ 防災関係者が集まる機会（枠組み）を継続
 - ・ 地域防災フォーラムや勉強会を独自に開催
 - ・ つながりのできた講演者を招く など